

修身初訓 十

創立七十周年記念
生 養 生 寄 贈
福岡第一師範學校
(寄贈圖書)

分類 第	號
社 會 科 學 門	
教 育 部	
教授法	修身 項
目	次
全	9 冊 / 內第 9 冊
分類 第	34270 號
分 第	372. /

T 1A1
22
Mi 77

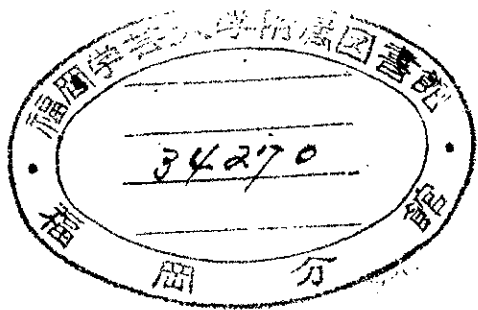
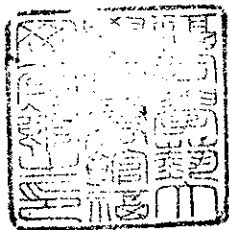
修身初訓卷之十

緒言

此卷第六年後期中等生徒ノ演スル所タリ凡ソ
九章陰德ニ起リ誠實ニ及ヒ慈愛ニ及ヒ家制ニ
及ヒ生産ニ及ヒ立身ニ及ヒ躬行ニ及ヒ夫婦ニ
及ヒ盡忠報國ニ止ル全部出ス所聖賢ノ言行果
メ能ク實行ニ施サバ修身ノ基立ツコトアルニ
庶幾カラン

明治十五年

編者識



修身初訓卷之十

第一章

○書ニ曰ク惟上帝常ナラズ、善ヲ作セハ、之ニ百祥
ヲ降シ、不善ヲ作セハ、之ニ百殃ヲ降ス、

○易繫辭ニ曰ク、善積マザレハ、以テ名ヲ成スニ足
ラズ、惡積マザレハ、以テ身ヲ滅スニ足ラズ、小人ハ
小善ヲ以テ、益ナシトシテ爲ズ、小惡ヲ以テ、傷レナ

宮本茂任編輯
宗 盛年校閱

シトシテ去ラズ、故ニ惡積テ掩フ可ラズ、罪大ニシテ解ク可ラズ、

○磨礪底厲、其損スルヲ見ザレトモ、時アリテ盡久種樹畜養、其益スヲ見ザレトモ、時アリテ大ナリ、徳ヲ積ミ行ヲ累ヌ、其善ヲ見サレトモ、時アリテ用井ヲ以、義ヲ弃テ理ニ背キ、其惡ヲ知ラサレトモ、時アリテ込フ、漢書

○司馬君實曰ク、祖父徳アレトモ、子孫不善ヲ爲セハ、未禍敗ヲ免レズ、何ソ慶アラシ、祖父不善ナレトモ、子孫徳アレハ、福祿將ニ集ラントス、何ソ殃アラ

シ、祖父不善ヲ爲シテ、而メ子孫又徳以テ前人ノ徳ヲ蓋フナケレハ、則餘殃ヲコレ被ル、

○申包胥曰ク、人衆キ者ハ天ニ勝ツ、天定テ亦能人ニ勝ツト、世ノ天ヲ論スル者、其定ルヲ待タズシテ之ヲ求ム、故ニ天ヲ以テ茫々タリトシテ、善者以テ怠リ、惡者以テ肆マ、ナリ、盜跖ノ壽、孔顔ノ厄、此レ皆天ノ未定ラサルナリ、蘇軾三槐堂銘

松柏山林ニ生スル、其始ヤ蓬蒿ニ困ミ、牛羊ニ厄シテ、而シテ其終ヤ、四時ヲ貫キ、千歳ヲ經テ、改メサル者、其天定ルナリ、善惡ノ報、子孫ニ至リテ則其定ル

久シ、吾見ル所聞ク所ヲ以テスレハ、其必トスヘキ審ナリ、

○人物ハ天地ノ生ム所、天地其生ム所ヲ愛スルハ、父母ノ其子ヲ愛スルガ如シ、故ニ人物ヲ愛スル、則天心喜フ、天心喜ヘハ、則必福報アル、人ノ子ヲ愛スレハ、則其親喜フガ如シ、豈妄ニ禱祠シテ福ヲ求ム可シヤ、人物ヲ傷害スレハ、則天心怒ル、天心怒レハ、則必譴責アル、人ノ子ヲ傷レハ、則其親怒ルカ如シ、豈妄ニ禱祠シテ禍ヲ免ルベケンヤ、初學知要

○野見宿禰ハ、垂仁帝ノ朝ニ仕ヘリ、帝嘗テ詔ヲ下

シ、殉葬ヲ禁セリ、皇后崩スルニ及ヒテ、頗疑惑スル所アリ、宿禰進ミテ諫メテ曰ク、山陵ニ生人ヲ瘞埋スルハ不仁ノ事ナリ、後世ニ示ス所以ニ非ス、陛下皇后ノ從衛ナキヲ痛マハ、臣請フ便宜ヲ以テ從事ヒント、乃土工ヲ召シ、自ラ督シテ埴ヲ搏チ、人馬及諸物ヲ作り、以テ奉獻ス、因テ奏シテ永制トス、此ヨリ殉葬ノ事止ミ、人其餘澤ヲ蒙ル、宿禰ノ裔菅丞相アリ、生キテ良相トナリ、薨シテ祭典ヲ賜ハリ、聖人ノ稱千歳ニ不朽ス、

○歐陽德儀幼シテ孤トナリ、母ニ事ヘ孝アリ、其心

仁ニ厚ク、道判判官泗綿二州推官トナリ、又泰州判官トナル、嘗テ夜燭ヲ照シ官書ヲ治メ、屢書ヲ廢テ、歎息ス、妻其故ヲ問フ、答ヘテ曰ク、此レ死獄ナリ、我其生路ヲ求ムレ、得ズ、妻曰ク、死獄生路ヲ求ムヘキカ、德儀曰ク、生路ヲ求メテ得ザレハ、死者我ト皆遺恨ナシ、矧ヤ求ムレハ生路ヲ得ルヲヤ、其生路ヲ求得ルヲ以テ、求メズシテ死スル者ノ遺恨アルヲ知ル、我此ノ如ク常ニ生路ヲ求ムレ、猶之ヲ死ニ失ス、而シテ世常ニ人ノ死ヲ求ムル者何如ナラシ、其仁此ノ如クシテ、又廉ニシテ富マズ、死スル時

孤兒寡妻、一瓦ノ覆ヒ、一隴ノ植物、以テ生トスルナシ、寡妻又賢ニシテ善孤兒ヲ教養シ、孤兒長シテ篤學力行、万人ニ超ユ、宋ノ名相歐陽永叔是ナリ、永叔相位ニ陞リ、德儀崇國公ヲ贈ラル、

第二章

○大學ニ曰ク、小人間居シテ不善ヲ爲ル、至ラサル所ナシ、君子ヲ見テ、而後厭然トシテ其不善ヲ掩ノテ、而シテ其善ヲ著ハス、人ノ已ヲ視ル、其肺肝ヲ見ルカ如ク然リ、則何ノ益カアラシ、此レ中ニ誠アレハ、外ニ形ハル、ヲ謂フ、

○劉忠定、司馬君實ヲ見テ、心ヲ盡シ已ヲ行フ要ヲ問フ君實曰ク其誠力忠定曰ク之ヲ行フ何ヲカ先ニセシ、君實曰ク妄語セサルヨリ始ム、

○琴瑟鐘鼓ハ、無情ノ物ナレトモ、怒テ奏スレハ、憤激ノ音ヲ發シ、悲テ奏スレハ、慘戚ノ聲ヲ生ス、無情ノモノナレトモ、至誠ヨリメ感動スルナリ、凡ソ天下ノ事、智力ノ及ハサル所アリ、智力ノミ頼ムトキハ、意外ノ憂アリ、誠ヲ主トスルトキハ、天地鬼神モ擁護シ、人心モ服従スルナリ、良齋閑語

○諸葛孔明ノ蜀ヲ治メシトキ、李平廖立ヲ黜ケシ

ガ、孔明ノ死ヲ聞キ、二人トモニ流涕シ、病ヲ發シ死ニ至リシハ、孔明ノ誠、人ヲ感スル所ナリ、郭子儀ノ回紇ト戰フトキ、單騎ニテ敵陣ニ入り、利害ヲ説キシカハ、回紇大ニ感服シ、羅拜シテ兵ヲ引シハ、郭子儀ノ誠、人ヲ感スルナリ、管丞相ノ訟ヲ聽レシトキ、其畢ラサルニ兩人慙愧シ、相公ヲ見ルモ恐レアリト、自殺セシハ、相公ノ誠、人ヲ感スルナリ、同上

○森蘭丸、織田右府ノ小刀ヲ捧ケ、右府ノ厠ニ行ケルニ隨ヒ、戲ニ鞘ノ刻文ヲ數ヘリ、右府竊ニ之ヲ見、他日其小刀ヲ掲ケ、此刻文ノ數ヲ射テタル者ニ此

刀ヲ與ヘント曰ヒ、意蘭丸ニ與ヘント欲ス、近侍各其意ニ隨ヒ、數ヲ呼ヘトモ、蘭丸黙然タリ、右府之ヲ促スニ、蘭丸對テ曰ク、臣公ニ厠外ニ侍リシトキ、戲ニ此數ヲ筭ヘ知レリ、今若知ラサルマ子シテ、數ヲ呼ヘハ、君ノ賜ヲ貪リテ、衆ヲ欺クナリ、故ニ敢テセスト、右府其誠實ヲ感シ、遂ニ小刀ヲ蘭丸ニ與フ

○伊藤東涯、父仁齋ヨリ家學ヲ承ケ行誼方正、純然タル君子ナリ、嘗テ一小囊ノ路ニ遺ルヲ見ル、以テ藥物ナリトシ、從者ヲシテ之ヲ舉ケシメ、鮮キテ之ヲ視レハ、内ニ十餘金アリ、東涯忽覺感シテ曰ク、此

便溺也

レ當ニ遺者ヲ候ヒテ之ヲ還スベシト、待ツ久シク、日將ニ暮ントス、遲々トシテ去リ、家ニ歸リテ、之ヲ閣上ニ置キ、伊勢ノ祝人至ルニ及ヒテ、付シテ大神宮ニ納ム、又嘗テ夜深ケテ歸ル、途中誤リテ防火水桶ニ洩ス、去ル一里餘ニシテ、始テ其貯水タルヲ覺リ、則還リテ戸ヲ叩キ、謝スル者再三、明旦人ヲ遣シ之ヲ洗滌セシム、其誠實ニシテ欺カサル、是ノ如シ、

○晋、揚震カ舉ル所ノ荊州ノ茂才王密、昌邑ノ令ト爲リ、謁見スルニ、金十斤ヲ懷ニシテ震ニ遺ル、震曰

ク我君ノ善ヲ知リテ舉ク、君我貪ラザルヲ知ラザルハ何ソ、密曰ク、暮夜知ル者ナシ、震曰ク、天知ル神知ル、我知ル、子知ル、何ソ知ル者ナシト云フ、密愧テ去ル、

○宋晏殊七歳能文ヲ属ス、帝殊ヲ召シ、進士千餘人ト並ニ廷中ニ試ム、殊神氣懾レズ、筆ヲ援テ立トコロニ成ル、帝嘉賞シ、後二日又詩賦論ヲ試ム、殊奏ス、臣嘗テ私ニ此賦ヲ習フ、請フ他題ヲ試ミラレン、帝其欺カサルヲ愛ス、既ニ成リテ數善ト稱ス

第三章

○孟子曰ク、人皆人ニ忍ビサル心アリ、以テ人皆人ニ忍ビサル心アリト謂フ所ノ者ハ、今人夕チマチ孺子將ニ井ニ入ラントスルヲ見レハ皆怵惕惻隱ノ心アリ、以テ交ヲ孺子ノ父母ニイル、所ニ非、以テ譽ヲ郷黨朋友ニ要ル所ニ非、其聲ヲ惡テ然ルニアラス、

○聖人ノ天下ニ於ルヤ、譬ヘハ一堂ノ上ノ如シ、今滿堂酒ヲ飲ム者アリテ、一人アリ獨索然トシテ隅ニ向テ泣クトキハ、則一堂ノ人皆樂マス、說苑

○方孝孺曰ク、己ノ温カナレハ、人ノ寒キヲ思ヒ、己

ノ安ケレハ、人ノ艱ミヲ思フ、又曰ク閭巷ノ士、天下
後世ヲ澤セント欲スルハ、固ヨリ其職ニ非、然レモ
其身ノ居ル所ニ因テ、其分ノ爲ヘキ所ヲ爲バ、奚爲
ノ可ナラサラン、

○人ノ爲ニ謀リテ心ヲ盡シ、或ハ其才能ヲ君相ニ
薦メ、人ノ爲害ヲ除キ、貧困ヲ惠ミ、人ニ恩ヲ施ス、
只偏ニ仁心ヨリ行フベシ、人ノ喜テ報スルヲ望ム
可ラズ、又名聞ノ爲ニス可ラズ、若名聞ノ爲ニ善ヲ
行ヒ、又人ニ施シテ、其報ヲ望メハ、仁心空トナル、此
ノ如クナレハ、カヲ用井テ善ヲ行ヘトモ、其事ハ是

ニシテ、其心ハ非也、大和俗訓

○善ヲ行ヒ人ヲ救フハ、貧賤ナル人モ、其志アレハ
身ニ應シ、人ニ利益アル事多シ、飢タル者ニ一飯ヲ
與ヘ、渴ケル者ニ湯水ヲ與ヘ、道路ノ荆棘、稜石等、人
ヲ傷フ者ヲ除ク、是亦人ニ益アル善行ナリ、況ヤ富
貴ノ人、其志アレハ、人ヲ救フ、廣ク其功必大ナリ、
初学訓

○老子曰ク、慈ナリ、故ニ能勇ナリト、蘇軾曰ク、父母
ノ子ニ於ル、之ヲ愛スル、深シ、故ニ之カ爲ニ事ヲ
慮ル、精シ、深愛ヲ以テ精慮ヲ行フ、故ニ之カ爲ニ、

音義
有未
の意

害ヲ避ルヲ速ニ、利ニ就クヲ果ス、此慈ノ能勇ナル所以ナリ、父母ノ人ヨリ賢ナルニ非、勢必至ル所アリ、

○徳川氏禁アリテ、鶴ヲ殺ス者ヲ刑ス、蓋仙禽ヲ重スルナリ、水戸黄門光國ノ時、人アリテ鶴ヲ禁獵ノ所ニ殺シ、捕ヘラレ獄ニ在リ、春正月、封内ノ僧ヲ招テ享スルヲ例トス、黄門僧徒ニ謂テ曰ク、禁ヲ犯シ鶴ヲ殺ス者アリ、我此獄ヲ斷ス、僧等觀ヨト、囚人ヲ庭ニ引出シ之ヲ松樹ニ縛ヘ、大聲喝シテ曰ク、汝大禁ヲ犯ス、其罪赦ス可ラズト、刀ヲ拔テ之ニ擬ス、僧

音保

徒瞠若トシテ一語ヲ出サズ、黄門刀ヲ投シテ曰ク、我豈人ヲ以テ禽ニ替ンヤ、而メ法律曲クヘカラズ、沙門ノ一哀ヲ待テ宥サント欲ス、今僧等果然トシテ危キヲ見テ救ハズ、慈仁ノ心安ニカ在ルト、命シテ鶴ヲ殺ス者ヲ宥ス、

○林述齋ハ、實岩邑侯ノ子也、幼ヨリ慈愛フカシ、十一二ノ時、旁近ノ花市ニ遊フニ、必輜ニ乗レリ、一日門ヲ出テ、數百歩ニシテ、輜ヲ下リ徒歩ス、左右輜ニ乗ルヲ勸ムレト、肯セス、既ニ邸ニ歸リ左右問ス、今日何故ニ輜ニ乗ラサリシト、述齋笑ヒテ曰ク、輜

夫中ニ一老夫アリ、我之ヲ勞ハリ、其任ヲ輕クスル也ト、左右之ヲ聞キ驚嘆ス、長シテ學術大ニ進ミ、才識人ニ秀テ、徳川氏ノ儒宗林氏ノ家ヲ嗣キ、篤學識量、林氏ノ中興タリ、

○齊景公、爵轂ヲ探ルニ轂弱シ、故ニ之ヲ巢ニ反ス、晏子之ヲ聞キ、請フヲ待タズ入テ見ユ、景公汗出テ、惕然タリ、晏子曰ク、君何ヲカ爲ル、景公曰ク、我爵轂ヲ探ルニ轂弱シ、故ニ巢ニ反ス、晏子逡巡トシテ北面再拜シ、賀シテ曰ク、吾君聖王ノ道アリ、景公曰ク、何ソヤ、晏子對テ曰ク、君爵轂ヲ探ルニ轂弱シ、故

ニ巢ニ反ス、是幼ヲ長セシムル也、吾君ノ仁愛禽獸ニ加ハル、況ヤ人ニ於テヲヤ、此聖王ノ道ナリ、

第四章

○司馬君實曰ク、凡ソ家長ト爲テハ、必禮法ヲ謹ミ守リ、以テ群子弟及家衆ヲ御シ、之ニ分ツニ職ヲ以テシ、之ニ授クルニ事ヲ以テシ、而メ其成功ヲ責メ、財用ノ節ヲ制シ、入ルヲ量リ出スヲ爲シ、家ノ有無ヲ稱リ、以テ上下ノ衣食及吉凶ノ費ニ給スルヲ皆品節アリテ均一ナラサルヲナク、冗費ヲ裁省シ、奢華ヲ禁止シ、常ニ稍贏餘ヲ存シテ、以不虞ニ備フヘシ、

○中村惕齋、性理ノ學ヲ奉シ誠敬ヲ以テ本トス、天文地理尺度量衡ノ類、皆能之ヲ究極シテ、尤禮ニ深シ、其家ニ居リ、已ヲ行フ、吉凶日用ノ間、一ニ古道ニ則リ、言動苟セス、踐履軌トスルニ足レリ、姫鏡三十ニ卷、婦女ノ爲ニ著ス、此邦、女誠此書ニ過クルモノナシト云フ、

○川井東村、晩ニ學ニ志シ、業ヲ山崎闇齋ニ受ケカヲ持敬ノ說ニ專ニシ、孝ヲ父母ニ致ス、嘗テ傭夫ヲ畜フ、傭夫暴悍倨傲ニシテ、敬愛ヲ知ラズ、然レモ其事ニ就ク、更ニ憚ル所ナシ、故ニ東村未嘗テ之ヲ

譴メズ、居ルヲ數十日、傭夫自抑遜シ、東村ヲ見ルコトニ及テ慙ル色アリ、後自然ニ篤實恭謙ノ人トナル、三宅道乙嘗テ東村ヲ訪ヒ、其家道ヲ見テ、歎シテ曰ク、是董呂南ノ遺風也、東村曰ク、或ハ然ラン、道乙去ル、既ニシテ東村自謂フ、呂南ノ德、我何ソ當ラント、明日特ニ道乙ノ家ニ造リテ曰ク、僕昨日對テ失ス、故ニ其罪ヲ謝スト、

○宋李昉宰相トナリ、家ヲ治ル法アリ、子孫數世、二百餘口ニ至ルマテ、猶居ヲ同クシ、爨ヲ共ニス、田園邸舍ノ收ル所、及ヒ官アル者ノ俸禄、皆之ヲ一庫ニ

聚々、口ヲ計リ日ニ給餉ス、婚姻喪葬ノ費ス所、皆常
數アリ、分チテ子弟ニ命シ、其事ヲ掌ラシム、其規模
大抵、翰林學士宋諤ノ制スル所ニ出ツ、

○程太中、諸父ノ子孫ニ篤ク、孤女ヲ嫁スルニ必其
カヲ盡ス、慈恕ニシテ剛斷ナリ、平生幼賤ト處ル、惟
其意ヲ傷ランコトヲ恐ル、然レモ義理ヲ犯スニ至リ
テハ、則ユルサス、婦家ヲ治ルコト法アリ、嚴ナラズシ
テ整フ、奴婢ヲ笞ウツコトヲ喜ハズ、諸子奴婢ヲ呵責
スレハ、必戒メテ曰ク、貴賤殊ナリト雖、人ハ則一也、

第五章

書ニ曰ク、農出サバレハ、則其食ニ乏シ、工出サ
レハ、則其事ニ乏シ、商出サバレハ、則三寶絶ユ、虞
出サバレハ、則財匱ク少シ、而メ山澤磽确ス、此四ノ
者ハ、民ノ衣食スル所ノ原ナリ、原大ナレハ、則饒ナ
リ、原小ナレハ、則鮮シ、上ハ則國ニ富シ、下ハ則家ヲ
富シ、貧富ノ道ハ、之ヲ奪ヒテ子ルナクシテ、而メ巧ナ
レ者ハ餘アリ、拙キ者ハ足ラズ、史記

○君子富メハ其德ヲ行ヒ、小人富メハ以テ其力ヲ
適ス、淵深シテ而メ魚之ニ生シ、山深シテ而メ獸之
ニ往キ、人富テ仁義之ニ附ク、富メル者ハ勢ヲ得テ

益彰レ、勢ヲ失ヘハ則客トシテユク所ナシ以テ樂
マズ夷狄ナルヲ益甚シ、同上

○農ハ田ヲ佃ル民ナリ、是人ヲ養フ者ナレハ、四民
ノ本ナリ、專ラ耕作ヲ務ムベシ、農業ハ天ノ時ニ隨
ヒ、春夏秋冬ノ務オコタラス、又地ノ利ニヨリ、其土
ニ宜シキ五穀ヲ植ウレハ、田圃ノ收入多久、公ニ貢
ヲ供シ、父母妻子ヲ養フニ乏シカラズ、其心モ亦安
樂ナル、是良農ナリ、初學訓

○工ハ器物ヲ造ル者ナリ、各其職ヲ勤メ、器物ヲ精
細ニ造リ、麁惡ナラザレハ、購求スル者多久、利ヲ得

ルヲ夥シ、是良工也、同上

○商ハ利ヲ輕ク取リテ多ク貪ラズ、我人ヲ欺カザ
レハ、人我ヲ疑ハズ、其品物ヲ信シテ、買フ者多久、商
道廣ク行ハレテ、富ヲ得ルヲ易シ、是良賈ナリ、同上

○元ノ許魯齋曰ク、學者生ヲ治ルヲ先トス、生計足
ラザレハ、則或ハ利ヲ嗜テ、以テ學フ所ヲ喪フ、是切
實ノ語ナリ、凡ソ人タル者、生産ヲ治ムル能ハズ、困
窮ニシテハ、君ニ忠ヲ盡シ、職ヲ盡ス能ハズ、親ニ孝
ヲ盡ス、能ハズ、親戚故舊ヲ救フヲ能ハス、意外ノ不
義ヲ行フニ到ル、家語ニ獸窮スレハ攫ム、鳥窮スレ

ハ則啄ム人窮スレハ則詐ル、然ラハ生ヲ治ルハ、今日第一ノ急務ナリ、良齋閑語

○聖賢ハ道理ヲ守リ、職分ヲ盡スヲ第一トシテ、貧富ニ心ハ累ハケバ、レトモ、驕奢ヲ好ミ、貧窮ニ至ルハ絶エテ無キヲナリ、顔子ハ處士ニシテ貧トイヘ氏、二頃ノ田アリテ耕シ、五畝ノ宅アリテ身ヲ安シ、琴ヲ彈シ書ヲ讀ミ、聖人ノ道ヲ樂ムト、韓詩外傳ニ見エテ、今ノ學者ノ田宅ノ半畝モ無キ者ニ非、曾子モ處士ナレ氏、其父曾皙ヲ養フニ必酒肉アリト、孟子ニ見エタリ、今ノ學者トハ異レリ、同上

○越後大倉定七、其父高賈ヲ生トシ、常ニ施シヲ好メトモ、資財未優ナラス、意ヲ逞スル能ハス、定七是ニ於テ慨然トシテ必富ヲ致シ、以テ父ノ志ヲ成サント誓ヒ、日夜勤勵シテ、而シテ父ノ死スル頃、負債万金ナリ、居ル所蓮瀉北地ノ一都會タリ、大賈多シ、物價ノ高下スル毎ニ人聚リ議ス、定七笑ヒテ曰ク、我ハ寧口身ヲ以テシ、口ヲ以テセズト、輒其所ニ赴キ、虛實ヲ驗シ、取ルベキハ取リ、與フベキハ與ヘ、未嘗テ遲疑セス、彼我兩ナカラ利アルヲ期シ、終一鉅萬ヲ重ルニ至ル、藩侯謁見ヲ賜フ、然レ氏自ラ奉ス

ル丁儉素、奴婢多シト雖、躬薪水ヲ執リ、死ニ至ルマ
テ改メズ、軍紀ヲ好ミ曰久古ノ英雄皆信義ヲ重ト
シテ、信義必骨肉ヨリ始ルト其弟窮シテ嗣ナシ少
子ヲ遺テ嗣トシ其産ヲ分チ與フ文化中越後大ニ
饑ウ、之ヲ賑救シテ曰久、今ニシテ父ノ志ヲ成スヲ
得タリ恨ムラクハ父ヲシテ目セシメザル丁、

○子贛既ニ孔子ニ學ビ退テ衛ニ仕ヘ、廢著シテ財
ヲ曹魯ノ間ニ鬻久七十子ノ徒、子贛最饒益ナリト
ス、原憲糟糠ニ厭ズ、窮巷ニ匿レタリ、子贛駟ヲ結ヒ
騎ヲ連子テ、束帛ノ幣以テ諸侯ニ聘享ス、至ル所ノ

國君庭ヲ分テ之ト抗禮セサルハナシ、夫孔子
ヲシテ、天下ニ布キ揚ケシム者ハ、子贛之ヲ先後ス
レバナリ、司馬遷曰久、是謂フ所勢ヲ得テ益彰ル
者乎、

第六章

○孔子仲弓ヲ謂フ、犁牛ノ子、騂シテ且角アラハ用
井ル丁ナカラント欲スト雖、山川ソレ之ヲ舍ンヤ
朱元晦曰久、仲弓ノ父賤シテ行惡シ、故ニ夫子此
ヲ以テ之ヲ譬ヘリ、

○子貢曰久、紂ノ不善、是ノ如ク甚シカラス、是ヲ以

テ君子下流ニ居ルヲ惡ム、天下ノ惡皆歸ス、朱元晦
曰ク人汚賤ノ實アレハ、惡名ノ聚ル所、子貢此ヲ言
ヘルハ、人常ニ自警メ省ミ、苟モ其身ヲ不善ノ地ニ
置ク可ラザラント欲スルナリ、

○孟子曰ク、拱把ノ桐梓人苟シ之ヲ生セント欲ス
レハ、皆以テ之ヲ養フ所ノ者ヲ知ル、身ニ至リテ以
テ之ヲ養フ所ヲ知ラズ、豈身ヲ愛スルヲ桐梓ニ若
ザランヤ、思ハザルヲ甚シ、

○柳玘書ヲ著シ、子弟ヲ戒テ曰ク、余名門右族ヲ見
ル、祖先ノ忠孝勤儉ニ由リ、以テ之ヲ成立セザルハ

シ、子孫ノ頑率奢傲ニ由リ、以テ覆墜セザルハナ
シ、成立ノ難キハ、天ニ升ルガ如ク、覆墜ノ易キハ、毛
ヲ燎クガ如シ、之ヲ言ヘハ心ヲ痛ム、汝宜ク骨ニ刻
ムベシ、

○安積良齋ハ、奥ノ二本松ノ人ニシテ、世神官ナリ、
幼ヨリ學ヲ好ム、人稱シテ偉器トス、嫡長ニ非ルヲ
以テ、出テ里正某氏ノ贅婿トナル、其家豪富ニシテ
以テ優游讀書シ身ヲ終フ可シ、良齋之ニ懷安シテ
家女アリ配耦スベシシテ、良齋ノ顔色醜陋、兩眼眇
視シ、致ク硃トシテ苦學スルヲ厭ヒ、棄テ、親戚

ノ家ニ避ク、良齋止ムヲ得ズ、婚ヲ絶チテ家ニ歸リ、
熟思フ我顔色ノ妍媸ヲ以テ、一婦女ノ爲ニ身ヲ進
退スル、豈ニ男子ノ事ナランヤ、是レ再ス可ラスト、
父母ニ告ケ、遊學セントスルニ、父母許サズ、良齋志
ヲ立ル、確乎トシテ變セス、遂ニ空索ニシテ江戸
ニ赴キ、旧識ノ法華僧ニ邂逅シ、其房ニ寓シ、終ニ佐
藤一齋家塾入り、都養トナリ、事ヲ操ル、傍暇ヲ偷ミ
學ヲ務メ、困苦ヲ忍ビ、艱難ニ耐ヘ、些少ノ光陰ヲ惜
ミ、積ムニ歲月ヲ以テシ、學已ニ成リ、帷ヲ市街ニ下
シ、徒ニ授ク、名譽漸ク顯レ、二本松侯ニ聘セラレ、儒

臣トナリ、終ニ幕府ニ辟サレ、昌平黌ノ教官トナリ、
一齋ト並ヒ立チ、碩儒ノ稱ヲ著セリ、

第七章

○子貢問テ曰久何如ナラハ斯之ヲ士ト謂フヘキ、
孔子曰久已ヲ行テ耻アリ、四方ニ使シテ君命ヲ辱
メザル、士ト謂フベシ、子貢曰久敢テ其次ヲ問フ、孔
子曰久宗族孝ヲ稱シ、鄉黨弟ヲ稱ス、子貢曰久敢テ
其次ヲ問フ、孔子曰久言必信ナリ、行必果ナル、硜々
然タル小人ナル哉、抑亦亦以テ次ト爲ベシ、

○伊川門人問フ人ノ燕居スル形體怠惰ストモ、心

慢ラズンハ可アリヤ否ヤ、伊川曰ク、安ソ箕踞シテ而メ心慢ラザル者アルヤ、昔呂與叔六月中緱氏ヨリ來レ、間居中ニ某嘗コレヲ窺フニ、必其儼然トシテ危坐スルヲ見ル、敦篤ナリト謂フベシ、學者須ラク恭敬スベシ、但拘迫ナラシム可ラズ、拘迫ナレハ則スシカタシ、

○學者固ヨリ勉強シテ懈フザルベシ、ス心思ヲ寛舒ニシ、精神ヲ愛養スベシ、此ノ如クナレハ、局促ノ態ナク、從容ノ象アリ、二ノ者並ヒ行ハレテ相悖ラザルベシ、自娛集

○張橫渠曰ク、乾ヲ父ト稱シ、坤ヲ母ト稱ス、云々、富貴福澤ハ、將ニ吾生ヲ厚クセントスル也、貧賤憂戚ハモツテ汝ヲ成ルニ玉ニスル也、朱晦菴曰ク、天地ノ人ニ於ケル、父母ノ子ニ於ケル、豈異ナルコアラシヤ、故ニ君子ノ天ニ事フル、周公ノ富ヲ以テ驕ルニ至ラズ、顔子ノ貧ヲ以テ其樂ヲ改メズ、

○衣垢キテ洗ハズ、器缺ケテ補ハズ、人ニ對シテ猶慙ル色アリ、行垢キテ洗ハズ、德缺ケテ補ハズ、天ニ對シテ、豈愧ル心ナカラシヤ、樵談

○紀平洲幼シテ讀書ヲ好ミ、稍長シテ遊學スレバ、

德義文學師資トスヘキ者ヲ得ズ參河ノ元淡洲ヲ
得テ學行皆師トスヘシトシ、就テ學ヒ、又師命ニ從
ヒ、長崎ニ往キ華音ヲ學フ、一朝母ノ疾ヲ聞テ歸ル
師其至孝ヲ稱ス、學行超越シ、且經濟ニ長スルヲ以
テ、諸侯重祿ヲ以テ招ケ、應セズ、唯尾州先塋ノ在
ル所ナルヲ以テ、終ニ其藩主ノ招キニ應ジ、經筵ニ
侍ス、學館督學ヲ兼テ親衛騎將ニ班シ、田祿四百石
ヲ賜フ、晩年ニ及ヒ、風格清華、世事ニ老練シ、人ニ接
ルニ溫恭禮アリ、一タヒ門ニ入ル者、長ク風采ノ照
映スルヲ覺ユ、

米澤藩主鷹山志ヲ政治ニ專ニシ、平洲ヲ迎ヘテ賓
師トシ、其言ヲ納レ、舊弊ヲ一洗ス、米澤ノ美政世ノ
稱讚スル所、即平洲ノ意見ニ出テ、衆民其途ヲ過ク
ルヲ見テ、淚ヲ垂レ合掌シ、大慈悲生如來公ト云フ
ニ至ル、米澤ニ往ク丁二回、皆留ル丁一年ニシテ歸ル、
平洲經義ヲ説ク、師說ヲ信守シ、必シモ、字句ニ拘
タラス、以爲ク、學問ハ德ヲ成シ、用ヲ爲スニ在リテ、
德ヲ成シ用ヲ爲ス丁、學術ノ淺深ニ在ラズト、故ニ
講說大ニ人ヲ感動ス、尾ノ藩主平洲ヲシテ各郷ニ
循行シ、農民ヲ教諭セシム、百工商客轎丁媼婆ニ至

ルマテ、會集スルヲ数千人、聽モノ感嘆、悅服セサル
ハナシ、是レ學術ノ致ス所ト雖、抑德望ノ盛ナルニ
非ンハ、安ゾ能是ノ如キヲ得ンヤ、

第八章

○詩ニ云ク、麻ヲ藝ル丁之ヲ如何、其畝ヲ衡從ニス
妻ヲ娶ル丁之ヲ如何、必父母ニ告ク、
又云ク、薪ヲ折ク丁之ヲ如何、斧ニアラザレハ克ハ
ス、妻ヲ娶ル丁之ヲ如何、媒ニアラザレハ得ズ、
○凡ソ婚姻ヲ議セハ、先其壻ト婦トノ性行及家法
何如ト察スベシ、苟モ其富貴ヲ慕フ丁勿レ、壻苟ニ

賢ナラハ、今貧賤ナリト雖、安ゾ異時富貴ナラザル
ヲ知ンヤ、苟ニ不肖タラハ、今富盛ナリトモ、安ゾ異
時貧賤ナラザルヲ知ンヤ、司馬君實

○婦ハ家ノ由テ盛衰スル所ナリ、苟モ一時ノ富貴
ヲ慕テ、コレヲ娶ラハ、彼其富貴ヲ挾ミ、其夫ヲ輕シ
其舅姑ニ傲ラザルハナシ、驕妒ノ性ヲ養ヒ成サハ、
異日患ヲナス丁、庸テ極アラシヤ、タトヒ婦ノ財ニ
因テ富ヲ致シ、婦ノ勢ニ依テ貴ヲ取ルトモ、苟モ丈
夫ノ志氣アル者ハ、能愧ル丁ナカラシヤ、
▲上

○夫婦ハ別アルヲ道トス、別トハ、内外貴賤ノワカ

ナアリテ、混亂セガルナリ、夫婦ハ、子孫相續ノ故ニ
シテ、人倫ノ始ナリ、夫ハ外ヲ治メ、婦ハ内ヲ治ム、夫
ハ婦ニ禮義ヲ正クシテ、婦ハ夫ニ和順ナルベシ、然
ルニ狎レ親キニ任セテ、敬ト和トヲ失ヘハ、其道タ
ハズ、婦人ハ多クハ愚ナリ、道ニ違ハバ、教ヘ正スベ
ク、怒ルベカラズ、怒レハ和ヲ失フ、初學訓

○高橋紹運、齋藤鎮實ノ妹ヲ聘シ、妻トセントス、其
頃兵馬倥傯ナルヲ以テ、未親迎スルヲ得ズ、戦争定
ルニ及ビ、紹運期ヲ請フニ、鎮實故ニ前約ヲ變スル
ニ非レトモ、賤妹近頃痘瘡ヲ患ヘ、癰痕醜惡ニシテ

君子ニ配シカタシ、請フ他ニ娶ラレヨト曰フ、紹運
色ヲ正シテ曰ク、君家ノ閨闈ヲ慕ヒ、既ニ姻ヲ結ベ
ル僕不肖ト雖、豈美色ヲ好シヤト、遂ニ之ヲ娶ル時
ニ、年僅ニ弱冠ナリ、後ニ子アリテ、統虎ト云フ、立花
氏ヲ嗣ク、實ニ柳川舊藩祖ナリ、

○白季晋君ノ使トシテ、冀邑ヲ過ク、冀ノ缺ガ耨リ
其妻之ニ餉スルヲ見ル、敬ミテ相待ツ、賓ノ如ク、
曰季缺ト共ニ歸リ、之ヲ君ニ言ヒテ曰ク、敬ハ徳ノ
聚ル也、能敬メハ必徳アリ、徳ハ以テ民ヲ治ム、君請
フ之ヲ用井ヨ、臣聞ク門ヲ出ルニ賓アルカ如ク事

承クニ奈ルカ如クス、仁ノ則ナリト、文公缺ヲ以
下軍大夫トス、

○奥州田村郡ニ赤沼ト云フ村アリ昔此村ニ馬之
丞ト云フ者アリ、村ノ赤沼ニ鴛鴦一雙居ルヲ見射
テ其雄ヲ獲タリ、此夜馬之丞ノ夢ニ、美婦來リ、潛然
トシテ泣ク、馬之丞恠ミ問ヘハ、昨日年頃ノ夫ヲ殺
シ給ヒシ、ソノ悲ニ堪ヘズシテ來レリ、我身モ長ク
此世ニ在ラジト、一首ノ歌ヲ置テ去レリ、

日クルレハ、誘ヒシ者ヲ、アカヌマム、マコモガ
クレノ、獨寢ソウキ、

馬之丞哀レミ且恠シミ、箭箠ヲ見レハ、鴛鴦ノ雌、喙
ヲ以テ自腹ヲ貫キ死セリ、馬之丞ノ子孫、今モ此村
ニアリテ、近年風早權中納言實秋、碑ヲ立テ其事ヲ
紀セリ、夫婦ノ情、羽鳥ノ微ナルモ、是ノ如シ、人トシ
テ、妻ノ色ノ衰ルヲ嫌ヒ改メ迎ヘ、或婦ノ密夫ニ狎
ル、此鴛鴦ニ劣レリ、良齋閑話

第九章

○孟子曰ク、魚ハ我欲スル所ナリ、熊掌モ亦欲スル
所ナリ、二ノ者兼スルヲ得ベカラズンハ、魚ヲ舍テ
熊掌ヲ取ラン者也、生モ亦我欲スル所ナリ、義モ

亦我欲スル所ナリ、二ノ者兼スルヲ得ベカラズン
ハ、生ヲ舍テ、義ヲ取ラン者ナリ、

○神武天皇、神ヲ敬シ武ヲ奮ヒ、天業ヲ恢弘シ、都ヲ
奠^サメ祀ヲ秩^ツテ、万世ノ基ヲ開キ、崇神天皇之ニ加ル
ニ厚生利用ノ政ヲ以テシ、黎庶業ヲ樂ミ、蠻夷率井
服ス、天子即天祖ノ胤、臣民即群臣ノ裔、故ニ尊神ノ
義明ナレハ、則皇室自尊久、異端自衰へ、忠孝ノ教立
テ、神皇ノ道興ル、弘道館記述義

○水戸侯光圀、宗家ヲ伝ケ、王室ヲ尊ヒ、武備ヲ修メ、
文教ヲ敷キ、天下其賢ヲ稱ス、侯景山其裔ヲ以テ澆

李ノ世ニ當リ、神武帝以下ノ陵ヲ修ント欲シテ事
行ハレス、光格帝ノ崩スル、葬祭奉謚ノ議ヲ建ツ、葬
祭ノ禮ハ行レザレトモ、奉謚ノ典ハ復古ス、文政ニ
酉ノ歲、武庫器械ヲ修メ、藩邸士臣ノ戎衣ヲ閱シ、親
ラ甲冑ヲ撰キ、東照宮ヲ拜シ、士臣ヲシテ戎服謁見
セシム、天保戊戌ノ歲、關東大ニ饑ウ、大ニ稷倉ヲ開
キ、且富民ヲシテ貧民ヲ救ハシム、嘉永庚子ノ歲、幕
府ニ乞ヒ介冑シテ野外ニ講兵ス、巨礮ノ声隣境ニ
聞ユ、文久壬寅ノ歲、幕府令ヲ發シ海防ヲ嚴ニス、侯
嘗テ封内ノ銅佛及ヒ梵鐘ヲ鑄リ、煩^{ワザ}銳^ズヲ造ル、是ニ

至リ、天下ニ行レントシテ、果サス、凡ソ侯ノ爲ル所、
盡忠報國ノ心ニ出テサルナクシテ、一二行ハレ、餘
ハ行ハレズ、而シテ蝦夷ヲ開^タ折シ、北門ノ鎖鑰ヲ固
クセント欲シ、數幕府ニ乞フ、是侯ノ尤盡心竭カス
ル緊要ノ事ニシテ、是ヲ以テ大ニ幕府ニ忌憚セラ
レ、幽閑ノ禍ヲ招ク、識者今ニ於テ、殊ニ侯ノ識見ニ
服ス、

○宋太宗ノ時、吾邦ノ僧^ニ裔然入唐シ、太宗ニ謁見ス、
太宗吾邦百代一姓ノ話ヲ聞キ、感歎シテ曰ク、我國
ハ僅五十年ノ間、梁唐晉漢周五代姓ヲ易ヘ、大亂極

レリ、日本ハ尊キ國ナリト、明朱舜水水戸ニ在リテ、
奴僕ノ其主人ニ禮義ノ厚キヲ見テ曰ク、我國モシ
此ノ如キ忠義ノ風俗アラハ、夷狄ニハ奪ハレジト、
嗟嘆セリ、吾邦君臣禮義ノ正キ、萬國ニ秀タルヲ知
ルベシ、良齋閑話

○宋李觀袁州學記ニ曰ク、今代聖神ニ遭ヒ、爾袁人
聖君ヲ得タリ、爾ヲシテ庠序ニ由リ、古人ノ跡ヲ踐
マシム、天下治マレハ、則禮樂ヲ譚シテ、以テ吾民ヲ
陶シ、一夕ヒ不幸アレハ、尤當ニ大節ニ仗リ、臣下ト
爲テハ忠ニ死シ、子ト爲テハ孝ニ死シ人ヲシテ頼

ム所アリテ、且法トル所アラシム、
○藤田東湖ハ、水戸藩臣ナリ、忠孝ノ誠、天性ニ出テ、
夙ニ家學ヲ受ケタリ、景山公報國ノ事、東湖承順シ
テ力アリ、景山公幕府ニ忌マレ、駒籠邸ニ閑居ス、東
湖モ亦罪ヲ獲テ、小梅ノ別墅ニ屏居シテ、忠誠ノ志
少クモ屈セズ、復家學ヲ攻メ、群籍ヲ綜覧シ、文天祥
正氣歌ヲ擬シテ、以テ懷ヲ述フ、忠憤ノ意知ヌベシ、
禁錮三年、事解ケ、郷里ニ歸ル、幕府景山公ヲ起シ、軍
國ノ事ヲ議ス、公乃東湖ヲ召シ、原職ニ復ス、是ニ於
テ公ニ從テ江戸ニ在リ、乙卯十月地震ス、馳テ母ノ

室ヲ伺フ、母戰栗シテ起ツ能ハズ、東湖母ヲ扶ケテ
出ントシテ、梁屋破裂スルニ遇テ壓死ス、年五十、公
親其碑ニ題シテ表誠ト曰フ、報國ノ志、終身衰ヘス
シテ、孝順ノ道ニ死スト云フ、

修身初訓卷之十大尾

明治二十二年二月調査

付價

跋

楊大年云童稚之學不止記誦養其良知良能當以先入之言為主夫童稚知思未定可與為善亦可與不善也譬諸湍水之不分東西從其所決而馳不審其所向終必有不勝其弊者矣此編陳聖賢之格言中外古今無所選擇而証以行事之卓爾者使童稚充目飽腹欲以養其良知良能

而為先入之主不為妄言謔說所搖惑矣
此修身之先務而行實之所由進也管敬
中有言四維不張國乃滅亡行實之所關
其至重如此矣讀者勿以卑近忽之可也

明治十五年四月 福岡 宗盛年謹題



明治十五年三月廿四日版權免許
同 年五月刻成

編輯人

福岡縣士族

宮本茂任

福岡縣福岡區東小姓町六番地

同縣士族

同

宗盛年

同縣同區地行八番町
二千五十番地

出版所

連璧書樓

製本會社

同縣同區下名島町
十五番地